

令和6年度 第58回 中学生の「税についての作文」

『税金がもたらす祉さいわい』

町田市立鶴川中学校 3学年 井峯 麻裕

私には母方に今年で八十九歳になる祖父がいる。先日、祖母が利用している介護施設に入居した。

一昨年、母は自宅から歩いて四十分程の祖父母宅に通っていた。祖母が施設に入居する以前は週三回程、以降は週二回程だったと思う。はじめ私は母の行動に疑問を感じていた。なぜそんなに通う必要があるのだろうと。しかしある日、私が母に同行していくと、いつも通りの温かい祖父母の姿に違和感を覚えた。祖母が机上的なお菓子を何度も勧めるのだ。もう充分に食べたと伝えても、数分後には忘れてしまったようでもまた菓子を差し出す。私は困惑した。

認知症の始まりを感じたその日からしばらくして、ケアマネージャーという存在を知った。母はその人物の協力を得て介護を行っているという。調べたところによるとケアマネージャーは、ケアプラン作成や利用者とサービス事業者間の調整を行っているそうだ。また、報酬は介護保険料等で賄われるという。

私は調べてみて、こんなにも介護者・要介護者に寄り添ってくれている存在がいることに驚いた。そして、忙しい様子の母を見ていた私は少し安心した。

ケアマネージャーについては、母が介護で分からない事がある時に高齢者福祉センターの相談窓口で連絡した際、紹介して頂いたそ

うだ。高齢者福祉センターといった施設は市が関わっており、運営には税金が支払われる。高齢者が無料で入館して交流を楽しめる場もあるらしい。これまで私達の支払う税金が、世のために正しく使われているのだから良かった。しかしこのような施設を通して、高齢者やその家族といった多くの人々の役に立っていると知り安心した。またそれは、少子高齢化社会において支え合い、より多くの人が人間らしく生きるために重要だと思った。税金を納める理由が少し分かった気がする。

私は二年生の職場体験で介護施設を訪れた。体験の中で高齢者の方と話すことの面白さを知った一方、介護の難しさを痛感し介護士の方に尊敬の念を覚えた。また、このような施設は私が思うよりも重要な役割を担っていた。

このような施設で働く介護士の給料には、国から税金による援助がつく。私は自分達の支払う税金が、世に必要とされている人の元へ届くことを嬉しく思った。

これまで税金は日本をより良い国にするために支払うべきものだという大雑把な考え方をしていた。しかし介護という一つをとっても介護される側、その家族や介護士といった介護する側の二面で役立っているのだった。

私は家族とできるだけ長く幸せに過ごしたい。二つの経験を経て税金の使われ方や重要性を学び、私は多くの人に税金に関する知識をつけて欲しいと思った。そのうえで全国民が税金について考え、正しく納税することが大切だと思う。